

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
情報基礎演習 I Information Basics Practice I		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(特になし)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
コンピュータリテラシー II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
亀田和則	講義棟 2階	月曜日		授業中に指示します
授業の概要				
Excelには、表にデータを入力して数式や罫線などを設定するという基本的な使い方に加え、プログラムどおりに自動処理をさせる使い方がある。そのプログラムを書くための言語がVBAだ。この授業はVBAの基礎について学習する。				
授業の目標				
①マクロとVBAの関係を説明できるようにする。 ②VBAでできることを説明できるようにする。 ③プロシージャとは何かを説明できるようにする。 ④オブジェクト、プロパティ、メソッド、Withステートメントの役割を説明できるようにする。 ⑤演算子、条件分岐 (IF、Select Case) の役割を説明できるようにする。 ⑥ループ処理、変数の役割を説明できるようにする。 ⑦ユーザーフォームの役割を説明できるようにする。				
授業の方法				
①まず、各授業のねらいや演習をするときの注意事項を説明する。説明を受けた後、演習を行う。 ②スケジュールを変更する際には授業にて連絡する。 ③課題を10個与える。 ④理解度の確認を1回実施する ④留学生は、配布されたプリントの漢字・カタカナにふりがなをつける。				
学習の成果 (学習成果)				
①授業の目標①②③④を達成すると、オブジェクト、プロパティ、メソッド、Withステートメントを用いて動作する入門者レベルのVBAを作成することができる。 ②授業の目標⑤⑥⑦を達成すると、さらに演算子、条件分岐、ループ処理、変数、ユーザーフォームを用いて動作する初心者レベルのVBAを作成することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (学習成果、成績評価)			
第2回目	マクロとVBAの関係	マクロ記録と実行	マクロの正体はVBA	マクロをVBEで変更 VBAができること
第3回目	VBEの使い方の基本 課題1を行う	プロシージャとは	SUBプロシージャとは	
第4回目	オブジェクトとは 課題2を行う	プロパティとは	メソッドとは	Withステートメント
第5回目	課題3を行う			
第6回目	演算子 条件分岐 (IF) 課題4を行う			

第7回目	条件分岐 (Select Case) 課題 5 を行う	
第8回目	ループ処理 (For…Next) 変数 Cellsプロパティ Offsetプロパティ 課題 6 を行う	
第9回目	課題 7 を行う	
第10回目	変数の宣言 課題 8 を行う	
第11回目	課題 9 を行う	
第12回目	乱数を発生する関数を使う 課題 10 を行う	
第13回目	ユーザーフォームを使う	
第14回目	今まで、学習した内容のまとめ	
第15回目	理解度の確認と解説	
事前・事後学習	事前：授業に参加するとき、日本人学生・留学生ともに授業範囲のプリントを読む。留学生は漢字、カタカナにふりがなをつける。事後：授業で不明だった点は必ず次回授業までに調べておく。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート	70%	授業内の課題が該当する。1回あたりの配点は70点/10である。満点となる条件は「期限内に、間違えがないVBAを作成する」である。
調査報告書		
小テスト	30%	理解度の確認が該当する。満点となる条件は「制限時間内に、間違えがないVBAを作成する」である。
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
プリントを配布します。		
履修上の留意点・ルール		
2回の遅刻は1回の欠席となる。		